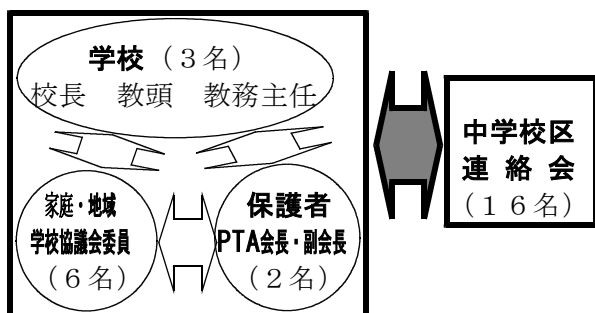


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



・地域コーディネーター (4名) …各地区公民館長

(2) 協議会の内容

- ①開催回数 年3回
- ②開催日程 6月、11月、2月
- ③協議内容
 - ア 本校の教育活動について
 - ・学校経営基本方針と経過報告
 - ・本年度の教育課程
 - イ 生徒の様子
 - ウ 学校評価について
 - エ その他

(3) 協議会における成果と課題

本年度より、地域を知り、地域と一緒に活動し、地域と積極的に関わる活動を行う清水活性化プロジェクト (SKP) の拠点を学校から公民館に移動し、主な会議や活動を公民館で行った。校下4地区の公民館長に家庭・地域・学校協議会委員を委嘱しているため、前年度より説明と依頼をし、本年度スムーズに拠点の移動ができた。

生徒も各地区も手探りななか、昨年度並みの活動は確保できた。さらなる活動が期待できる。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の活性化に向けて、地域の協力の下、生徒が主体的に地域と関わり、課題解決型の体験活動を通して、ふるさと福井に誇りと愛着をもつ生徒を育てる。

(2) 活動の実際

4月当初に、地域コーディネーターや家庭・地域・学校協議会委員、校下4地区の代表生徒、担当教員の委員会を各地区公民館で立ち上げ、昨年の実績をもとに、本年度どのような活動ができるかを各地区毎に話し合い、本年度一年間の取組計画を立てた。取組は、各地区時期、内容ともさまざまであるが、それぞれの地域と連携し、活動はスムーズに行われた。以下、地区ごとにまとめる。

① 西地区の取組

公民館祭りで子ども広場を担当した。地域の子どもたちに対して参加を呼びかけたり、掲示板にポスターをつくって掲示したりした。子ども広場では小グループに分かれ、手作りのゲームで子どもたちを楽しませた。



② 東地区の取組

地域の伝統工芸品、菅笠を広くアピールするために、生徒自身が刈り取った菅を材料に、菅笠マスコットを作成し、修学旅行先で配布した。また、例年菅笠をかぶった「かかし」を作成し、幹線道路脇に設置している。



③ 南地区の取組

親子・南地区合同体育祭で、生徒が競技役員を担ったり競技に出場したりして盛り上げた。また、ふるさとウォークに参加して、地区の各名所を小学生や大人を含めたグループで巡り歩いて改めて地区を知ったり、大会役員として運営に携わったりした。



④ 北地区の取組

春と秋の2回、地区クリーン活動を行った後、沿道に花を植えた。平成30年度の福井国体を盛り上げようと始まった活動であるが、回を追う毎に地域の参加者も増え地区をあげての行事に発展してきた。水やりも定期的に行っている。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

生徒と一緒に企画・運営に携わったり、講師への連絡方法や地域の広報活動などを具体的にアドバイスしていただいたりして、生徒と公民館・講師・地域諸役員等との調整をしていただいた。

(4) 特に工夫した事項

本校は校区が広く、4つの小学校区それぞれに特色があるため、4つの地域に分けて活動を行っている。地区ごとに活動したことは、円滑に企画や運営をするにあたり非常に有効であった。本年度どのようにSKPを進めていくのかを生徒全体に説明したり、他の地区がどのような取組を行ったのかを発表したりする地区生徒会をそれぞれ5月と1月に行った。

(5) 成果と課題

昨年度で3年間の地域と進める体験推進事業は終了したが、今後も活動を進めていく上で持続可能な方法を模索した。事業は学校から地域に対して働きかけた経緯で、学校が活動の拠点であることが多かった。3年間活動を終えた今後は、各地区の公民館に活動の拠点を移し、地域と生徒が活動を計画し実施するようにした。活動を一緒にすることで、生徒は地域をより意識し、地域は生徒を知ることができ、次第に相互理解につながっていった。活動日は基本的に部活動のない水曜日の放課後と日曜日で、特に水曜日は、放課後学校から直接公民館に向かった。

地区行事や公民館行事等に参加することに抵抗がなくなり、参加する生徒が増えていると、地域から評価されたり、学校の行事に積極的に参加して下さる地域の方が増えている一方で、学校から公民館に活動の拠点が移動したことにより、教員の負担は大きく軽減されたが、公民館としっかり連絡を取り合わない生徒の活動が見えなくなることがあった。

昨年度まで取り組んだ活動の中には、本年度割愛したものもあったが、生徒の思いが反映され、時間や経費的に無理なく持続して活動できるものに取り組みせたい。